

ながおとうげ ろとう 長尾峠の露頭

がいらんざん
外輪山を観察しよう！



ここでは、箱根火山の外輪山の断面を観察することができます。遠くから眺めてみると、溶岩と火山灰や火山れきなどが、ミルフィーユのように積み重なっているように見えませんか？このような火山を「成層火山」といいます。

ここの地層の傾きを観察してみましよう。地層が中央火口丘の方向（カルデラの内側）に傾いているのがわかりますか？このことから、これらの溶岩や火山灰などは、カルデラの外側の方向からやってきたことがわかります。

古い箱根火山の考え方では、この露頭の裏にある断層を境に、カルデラの内側に地層が落ちこんだため、カルデラの内側に傾いているとされていましたが、最近の研究で、この溶岩の向きは変わっていないことがわかりました。箱根火山の成り立ちを考える上でも貴重な露頭です。

ながおとうげ
長尾峠

芦ノ湖ができたヒミツを探ってみよう！



大涌谷のもくもくとした噴気が観察できる場所です（天候などによって見えない日もあります）。箱根で一番高い山の「神山」と、箱根で一番若い山の「冠ヶ岳」を探してみましょう。

神山の麓から手前のゴルフ場を眺めてみると、ハマグリを伏せたような形をしていませんか？これは約3,000年前に神山が崩壊したときに、流れ出た土砂がたまってつくられました。芦ノ湖はこのときの崩壊によって早川がせき止められたために、現在の姿になったと考えられています。

箱根石仏群

溶岩で作られた「磨崖仏」と「宝篋印塔」



ここでは、溶岩の崖をくりぬいて作った「磨崖仏」と、溶岩を切り出してつくった「宝篋印塔」を見ることができます。

約700年前の鎌倉時代につくられ、国の重要文化財に指定されています。鎌倉時代には、この付近は京と鎌倉を結ぶ重要な交通路（鎌倉古道・現在の国道1号線）でした。その当時、ここは火山活動の残り荒れた地形で地獄道とよばれ、旅人に恐れられていたため、石仏群・石塔群をつくって、旅人の安全を祈ったとのこと。

磨崖仏や宝篋印塔をつくる時に使用された溶岩は中央火口丘の駒ヶ岳や上二子山の溶岩と考えられています。表面をじっくり観察してみましよう。長尾峠で観察した溶岩と比べると、白や黒のつぶつぶがたくさん見えませんか？これはマグマが冷えてできた鉱物です。白っぽいところは斜長石、黒っぽいところは輝石です。また、溶岩に穴が空いているのがわかりますか？これは、火山ガスがぬけた跡です。

屏風山

屏風山の溶岩を観察しよう！



ここは、屏風山を大きくけずった採石場の跡です。高さ100メートルにわたって屏風山溶岩の断面がみられます。

遠くからこの溶岩を眺めてみましょう。縦の方向に多くの割れ目が入っているのがわかりますか？これは、溶岩が冷えるときにできた割れ目で、冷却節理といいます。

溶岩の表面を観察してみると、結晶がほとんど入っていないことがわかります。屏風山溶岩は厚い一枚の溶岩からなる台地状の山体で、今から8万年前に屏風山山頂付近から噴出し、須雲川に沿って甘酒茶屋付近まで流れたとされています。